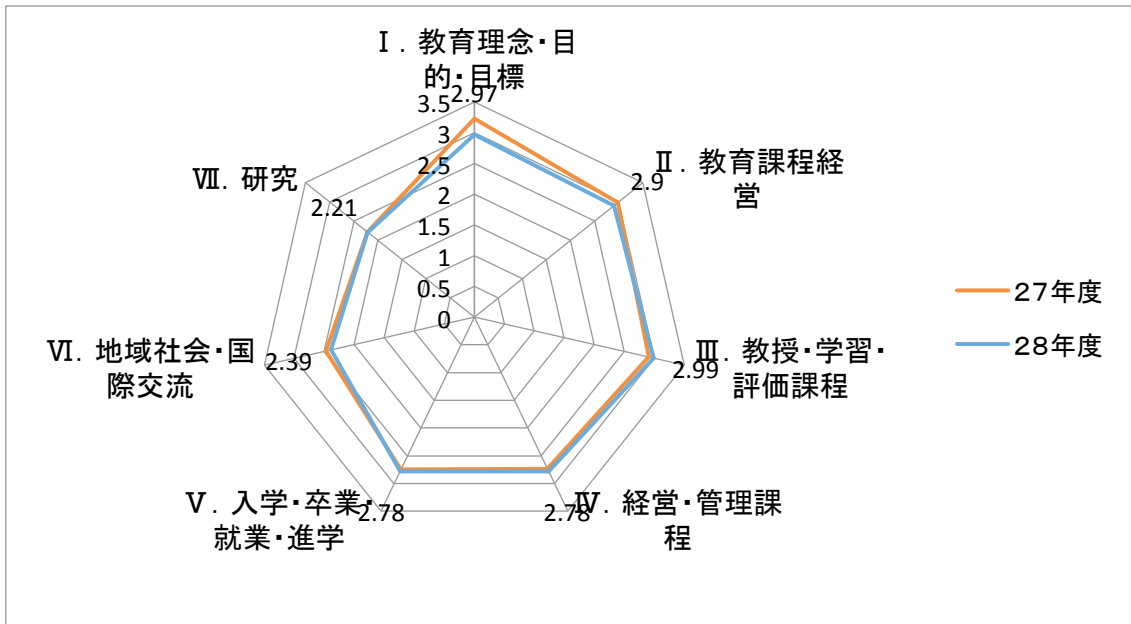


平成 28 年度 学校評価の結果報告

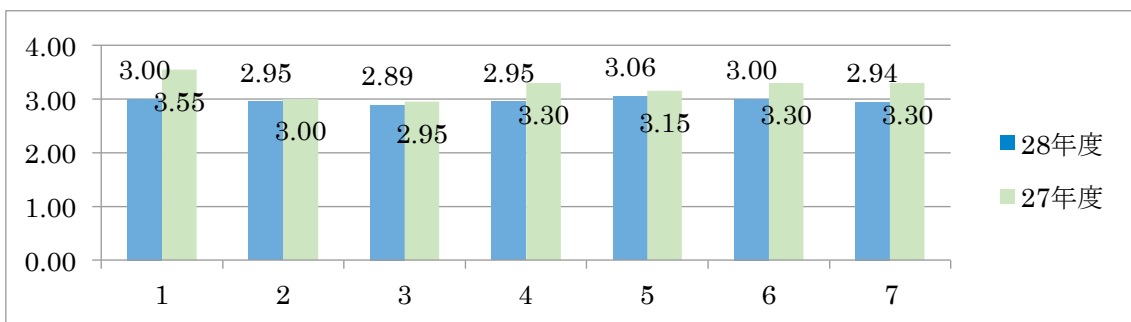
< 7 領域における自己評価 >



【分析方法】

「A：そう思う」を4点、「B：ややそう思う」を3点、「C：あまりそう思わない」を2点、「D：そう思わない」を1点とし、平均値を算定した。無回答は平均値の分母から除外した。

I. 教育理念・教育目的・教育目標



1	教育理念・教育目的は、本校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性があるか。
2	教育理念・教育目的は、学生にとって学修の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか。
3	看護・教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され、実際に指針となっているか。
4	本校の教育理念・教育目的が教育目標と一貫しているか。
5	教育内容は、設定した教育内容を網羅しており、かつ、卒業時の学生の到達度が明示されているか。
6	教育目標は、看護者としての能力を育成する側面と修学者としての成長を促すための側面から設定されているか。
7	卒業後の継続教育の考え方を示した上で看護基礎教育として、教育目標を設定しているか。

1. 現状

本校の理念である「信・誠・敬・愛の校是と行学一如の建学の精神の実践を通して人間形成を目指す」については全体的に、やや高く評価されている。

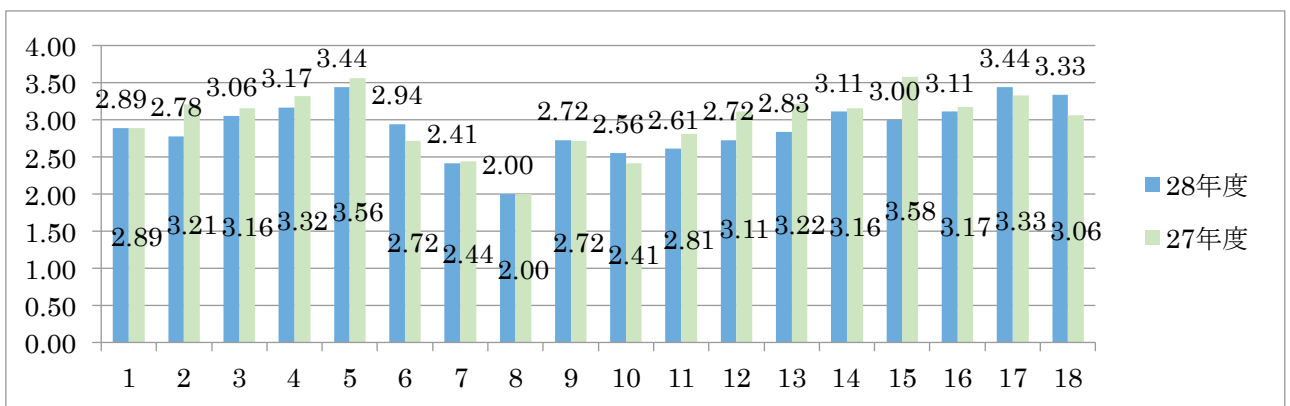
2. 課題

しかし、昨年のアンケートでは理念と目的や目標との具体的な関連性が理解しにくいなどの指摘があり、完全には解消されているとは言えない。

3. 改善の方策

教育目標にある「仏教的人間観」について、校長便り等で具体性を持たせると共に仏教的な行事を通して、学生それぞれに意識させ、生きる指針になるよう図ることが大切である。

II. 教育課程経営



1	科目と単元の考え方は、教育理念・教育目的・教育目標と整合性があり、明確な根拠をもっているか。
2	構成した科目は、本校の特徴を表しており、看護者を養成するのに妥当であるか。
3	単位履修の方法とその制約について、教員・学生の双方が解るようになっているか。
4	単位認定の方法は、看護者に必要な学修を認めるものとして妥当であるか。
5	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか。
6	教育課程を評価する体系を整えているか。
7	教員が専門性を発揮できるように教員の担当科目と時間数を配分しているか。
8	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えているか。
9	教員が自ら成長できるように自己研鑽のシステムを整えているか。
10	教員が相互に成長できるように相互研鑽のシステムを整えているか。
11	臨地実習施設は、本校の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか。
12	臨地実習施設は、学生の看護実践への学修を支援する体制を整えているか。
13	実習施設における学生の学びを保障するために臨地実習指導者と教員それぞれの役割を明確にしているか。
14	実習指導者と教員の協働体制を整えているか。
15	学生からケアを受ける対象の権利を尊重するための考え方を明示しているか。
16	対象の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っているか。
17	実習において学生が関係する事故を把握し、分析しているか。
18	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか。

1. 現状

教育課程経営に関わっては、概ね高く評価されている。科目の履修規程や単位履修に関わる条件など、一昨年度から学生便覧にも掲載し周知徹底を図っている。

また、臨地実習については、空知～後志地方まで、広域に渡る実習施設において、

実習施設による実習目標到達基準の平準化や、実習施設間で学生に経験差が生じないよう実習指導者との連携・調整を強化している。また、対象者・学生の安全を保障し実習運営ができるよう、学生の倫理観の育成と学生が関与するインシデントの要因を分析して学生へフィードバックし、防止対策を講じている。

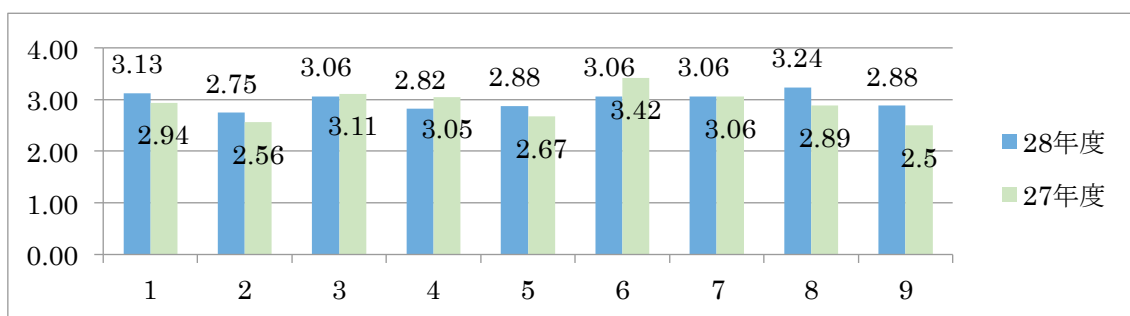
2. 課題

学生に対する丁寧な学習指導を実施している一方、教育課程の評価や授業の準備、改善への手だて等については昨年に引き続き時間が十分に確保できていない。また、教員が自己の専門性を十分発揮できる科目を担当することについては、教員の人事配置との関連で教員個人の要望を十分満たすことがむずかしい。

3. 改善の方策

- 1) 教材研究や事務的仕事のための時間確保のため、会議の簡素化と教務支援システムを活用した効率化をさらに進める。
- 2) 教員の専門性を発揮できる科目を担当することが望ましいが、かならずしもそうならない場合がある。そのため、科目の担当教員を複数にするなどして、協力体制を構築し、その担当が自己研鑽と教員同士の相互研鑽の契機にもなるよう努めることが大切である。
- 3) 引き続き、教務部に研修係を置き、年間計画に沿って学内での教員研修の実施と、研究・研修費を活用した教員の教育力の向上を図る。(特に新規採用教員には担当指導教員を位置づけ、日常的にいつでも疑問の解消ができるよう配慮する)
- 4) マンパワーの不足を緩和するため、1年スパンでの組織運営計画を可視化し、実習の重複期間や学内での技術演習・評価など、煩雑な時期のみインストラクターの雇用を引き続き継続する。

Ⅲ. 教授・学習（講義・演習・実習）・評価課程



1	授業内容のまとめりは、看護学の教育内容として妥当性があるか。
2	学生の理解を効果的に促すために授業内容の重複や整合性、発展性などが明確になっているか。
3	授業内容に応じた授業形態(講義・演習・実験・実習)を選択しているか。
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、実習指導者や教員間の協力体制を明確にしているか。
5	教員は、評価計画に基づいて、実際に授業を改善しているか。
6	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しているか。
7	単位認定の評価は、公平性が保たれているか。
8	シラバスの提示や学習への指導は、本校全体として一貫性があるか。
9	シラバスの提示や学習への指導は、主体的な学習への動機づけと支援になっているか。

1. 現状

概ね高く評価されている。特に今年度シラバスの改善を図っており、その成果が学習指導に現れている。

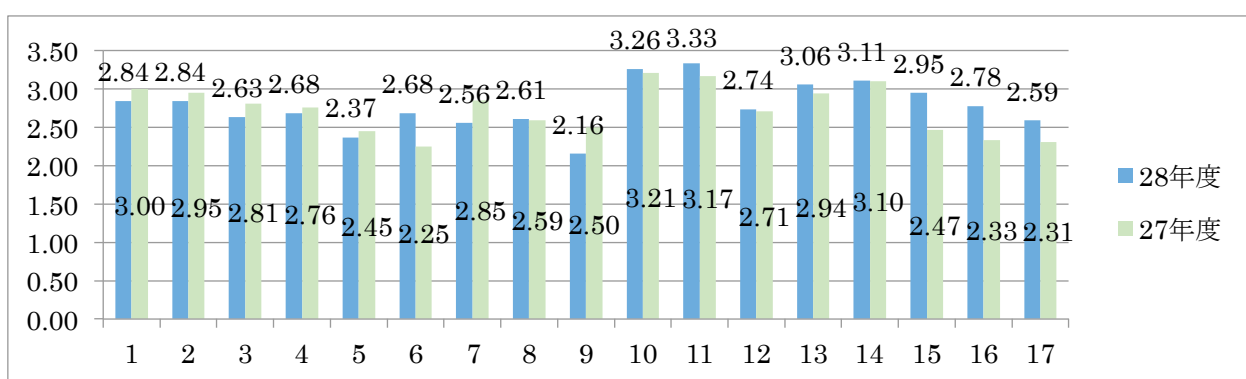
2. 課題

3年課程の開設時からの教育計画を継承しているため、現行カリキュラムを、見直す機会がもたれていない。科目間の関連性や順序性については教育課程に基づいて綿密に見直しており、一定の成果が見られる。

3. 改善の方策

- 1) 昨年度の冬季休暇を利用し、各看護学の単位認定者と科目担当教員との間で、教授内容の確認と領域間の重複を確認し、教授計画の見直しを行っている。
- 2) 4の協力体制については、教育課程経営と同様、新規採用教員について、組織的、計画的な研修を図ることが求められる。
- 3) 平成31年ごろに予測されるカリキュラムの改定に向けて、現行カリキュラムの課題のブラッシュアップを計画的に行う。

IV. 経営・管理課程



1	教職員は、設置者と管理者の意志・指針を理解しているか。
2	組織体制は、教育理念・教育目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確になっているか。
3	組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるような体制を整えているか。
4	教職員は、本校がどのような財務基盤によって成り立っているかを理解しているか。
5	それぞれの観点から財政についての教職員の意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか。
6	施設・設備は医療・看護の発展や学生の変化に合わせて計画的に整備改善しているか。
7	教職員の倫理規定が明確になっているか。
8	教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・教育目的の達成と整合性をもっているか。
9	学生及び教職員にとっての福利厚生施設・設備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備されているか。
10	危機管理マニュアルを策定し、それに基づき防犯・防災(避難)訓練を行うなど、安全確保の体制を整えているか。
11	健康管理委員会を設置し、学生の健康管理を支援するための年間計画を立案・実施・評価を行っているか。
12	学生が入学後に学習を継続できる支援体制を多角的、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。
13	教育・学習活動に関する関係者(保護者等)への情報提供を行うことによって、その協力支援を得ているか。
14	広報活動は、看護者を養成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか。
15	本校の運営においては、設置者の将来構想の下に運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価を行っているか。
16	自己点検・自己評価の体制を整え、学校評価として運用しているか。
17	評価機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっているか。

1. 現状

概ね高く評価されている。項目6と7の施設・設備については、計画的に整備改善を進めているが、十分な改善までは至っていない。

項目13の、教育・学習活動に関する関係者(保護者等)への情報提供を行うことについては、平成26年度にホームページを大幅にリニューアルし、広報活動の主軸

を担っている。また、高校訪問の折にも、在学学生の情報を提供し、理解を図っている。

倫理規定については28年度、校長から学生と教職員に対して、ハラスメントについて学校としての方針を明確にした。

2. 課題

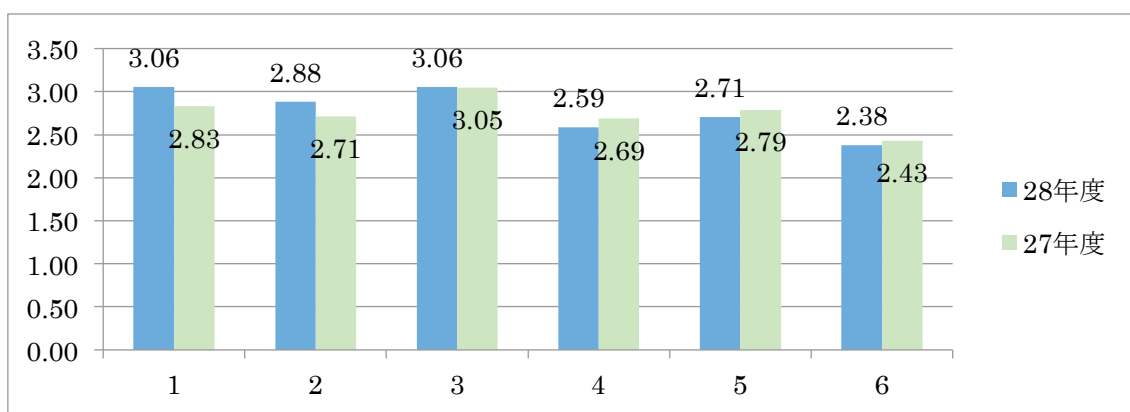
校舎の改築から約20年が経過し、耐震化をはじめ、非常階段の腐食や校舎内設備の老朽化、定員増に伴う設備の整備が、とりわけ男子トイレの増設、女子トイレの改装が喫緊の課題となっている。

その他、教材・教具の整備・改善については、耐用年数や消耗の度合いを考慮し、計画的な購入が必要である。

3. 改善の方策

- 1) 学生数の確保による財務基盤の強化
- 2) 耐震工事や改修工事の年次計画の作成と推進、及び年間教材購入計画による教材教具の整備の推進
- 3) ハラスメント防止等の徹底については、今後も取り組みを継続する。

V. 入学・卒業・就業・進学



1	本校の教育理念・教育目的との一貫性から、入学選抜の考え方を明確にしているか。
2	入学後の成績の推移等、入学者の状況を分析し、選抜方法の妥当性を検証しているか。
3	入学希望者を確保するため、積極的な募集を行っているか。
4	卒業時の到達状況及び就業・進学状況を分析し、教育理念・教育目的との整合性を検証しているか。
5	卒業生の就業先での評価を把握するために就業先との情報交換や調査ができる体制を整えているか。
6	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理して、教育理念・教育目的・教育目標、授業の展開に活用しているか。

1. 現状

概ね高く評価されている。

2. 課題

入学後の学生の休学・退学の主な理由として、進路変更・学業の不振による単位未修得があげられる。看護師を目指すという目的意識や学習習慣、コミュニケーションに関する基礎力について入学時の面接試験や小論文評価の判定基準を昨年度から見直しており、8期生の学習への取り組みの姿勢に、改善の兆しが見られる。

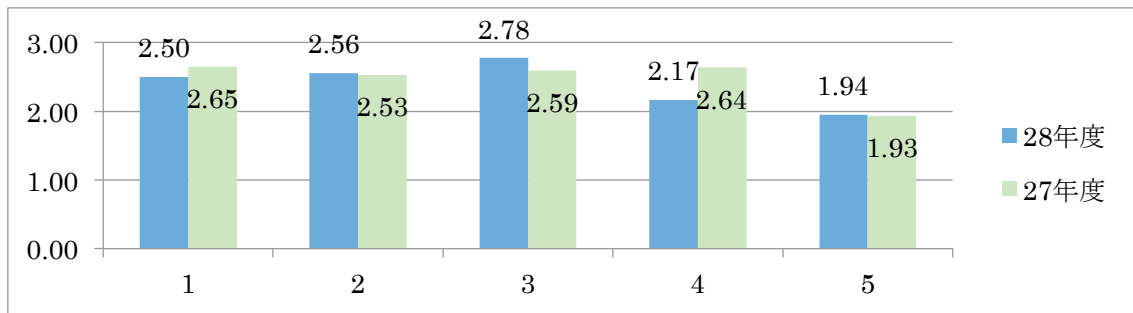
卒業生の情報については、病院の学校訪問時に近況報告を受けているが、学校として現状把握の取り組みは計画されていない。

3. 改善の方策

- 1) 入学試験の判定基準見直し後の評価
- 2) 就職病院への事業者アンケートの検討

3) 同窓会の活動計画

VI. 地域社会・国際交流



1	社会と連携し、看護者養成のための教育活動を通して、地域社会への貢献を組織的に行っているか。
2	本校の教育活動について、地域社会へ情報を発信しているか。
3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本校の学習・教育活動に取り入れているか。
4	国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。
5	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っているか。

1. 現状

評価は高いとは言えないが、地域の老健施設などでのボランティア活動や歳末助け合い運動には開設時から継続して取り組んでいる。ホームページでのリアルタイムな情報発信に努めている。また、NWS通信を今年度より全面的に見直し、広報活動充実を図っている。

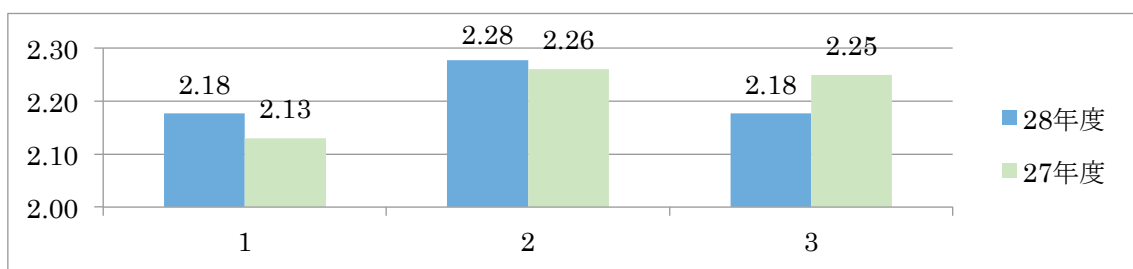
2. 課題

自己学習の環境については、パソコンの個人貸し出しを開始したり、図書室の専門図書の拡充を図ったりしているが、医中誌WEBなどの文献検索システムを導入していないこともあり、国際的な視野を広げるという意味ではまだ十分とは言えない。

3. 改善の方策

- 1) 国際的な活動経験をもつ講師の開拓
- 2) ホームページ掲載内容の充実
- 3) 医中誌WEBの導入

VII. 研究



1	本校には研究に価値をおき研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地があるか。
2	教員の研究活動を保証(時間的・財政的・環境的)しているか。
3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。

1. 現状

高い評価とは言えない。空知地区の研修会で実践報告は行っているが、学会発表の実績はない。昨年度より研究・研修費が設けられ、財政的には保障されるようになっている。また、今年度より教務管理システムを導入し、業務の平準化、スリム化を推進したが、研究に関わる十分な時間の確保は難しい現状である。

2. 課題

必要性は認識しながらも研究活動に取り組めない現状については今後も、教員の業務の平準化・スリム化を推進するとともに、会議のスリム化も図ることで、個々の教員が研究活動を計画的に取り組めるよう配慮する必要がある。

3. 改善の方策

- 1) 教務管理システムの有効活用の推進
- 2) 学内研修の計画的な実施
- 3) 授業研究や公開授業の実施